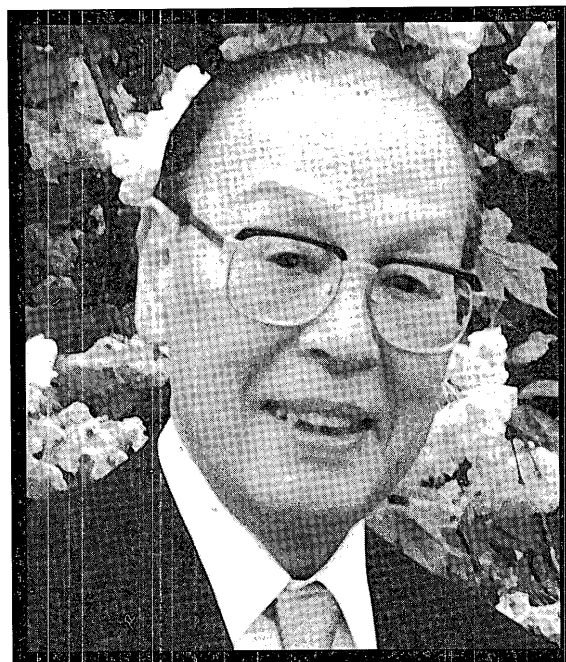




故 池 田 静 徳 先 生
The late Professor Shizunori Ikeda
(1921～2002)

池田静徳先生のご逝去を悼む

日本水産学会名誉会員，京都大学名誉教授池田静徳博士は2002年7月10日京都府城陽市において逝去されました。享年80才でした。

先生は，1921年（大正10年）11月25日鹿児島県にお生まれになり，昭和28年3月京都大学農学部水産学科を卒業し，同大学食糧科学研究所研究生，同研究所助手（昭和29年），同講師（昭和34年），同助教授（昭和35年）を経て，昭和40年には同大学農学部教授（水産化学講座担当）に就任されました。京都大学評議員および農学部附属水産実験所長などを歴任された後，昭和60年3月に停年退官され，京都大学から名誉教授の称号を受けておられます。

先生は魚類栄養学，水産化学などの分野で多くの業績をあげておられますが，主要なものは魚類のビタミン（とくにビタミンC），魚類における炭水化物の代謝および利用能，魚類のプロテアーゼ，水産物の有効利用などに関する研究で，それらが関連する分野において先導的役割を果たされました。また本学会においても理事，評議員，近畿支部長，各種委員等を歴任され，本会の発展に貢献されました。これらのご業績によって昭和59年度日本水産学会功績賞を受けられ，平成4年には名誉会員に推挙されています。さらに，これら諸々のご業績によって平成9年4月勲三等旭日中綬章が授与されるにいたっております。

ご退官後，ただちに近畿大学農学部へ教授（同大学水産研究所兼務）として迎えられることとなり，研究教育に従事されるかたわら，海産魚類養殖の技術指導のため幾度となく海外に旅され国際協力面の発展に貢献されました。

先生は若年より学を志し，いわゆる苦学の道を厭うことなく歩んでこられました。しかし，こうした過去を決して他人に戒めとして喧伝することなく，まことに清く，あるときは逞しく人の世の道に足跡を印されました。このようなお人柄は，多くの後輩，弟子をひきつけ，慈父のように慕われたのであります。しかし，後年病魔に襲われることとなりご家族や周囲の献身にもかかわらず，このたびついに帰らぬひととなりました。

ここに池田静徳先生の生前のご業績を称え，謹んで哀悼の意を表します。

（坂口守彦 京都大学名誉教授）